

No.2311 飯豊山 (大日岳)

残雪期ルートというものに興味を引かれ、最近の連休はもっぱらこれである。残雪期ルートとは夏は藪に覆われ歩けない所を、季節が良く雪の安定した春に歩こうという訳である。大日岳から西に伸び蒜場山にいたる長大な尾根と飯豊主稜線から越後の二王子岳を結ぶルートを繋げると、周回コースになる。残雪期ルート趣味人としては、ぜひ踏破してみたいと思っていたところ、カクテルで例会に取り上げて頂けることになった。

小俣 (記)

日時 2012年4月28日(土)~5月2日(水)

参加者 鳴原(L) 尾崎 以倉 小俣

4/28 (快晴) 早朝、新潟の燕三条駅で大阪組の車に pick up してもらい、登山口の加治川ダムを目指す。上赤谷の村を過ぎ、林道に入るとまもなくゲートに…「アレッ？ダムまで開通してるんやないの??」仕方がないので、ゲート前駐車場に車を置き、出発準備にとりかかる。8:00 出発。林道のトンネルが雪で埋まりとても通行できる状態ではなかったのでゲートに納得。ロスタイムで「今日は蒜場山を越えた辺りまでしか行けないな」、コゴミやフキノトウを採取「今夜の一品に追加」などと話しながら行く。10:00 加治川ダム到着。雪解け水を詰めパッキングし直して、いよいよ登山道へ 10:30。いきなり尾根の急登で始まり、残雪と夏道が交互に現れる。例年の記録だと稜線に出るまでは夏道ということなので、やはり今年は雪が多い！重荷に喘ぎながらも“天気はよく春の薫りが心地よい”これから始まるルートへの期待に胸を膨らましていた。しかし、I氏がバテ気味。「とにかく蒜場山でテント」などと言いながら荷物を分け持つ。1:30~2:00 岩岳、稜線に出る。3:30~4:45 烏帽子岩、ちょっとした岩峰で見晴らしが良い。対岸の焼峰が手に取るように見える。今日は睡眠不足だし、Iさんもバテているから早目の幕営」ということになり、稜線を整地してテントを張る 4:00。重いおもりをして担ぎ揚げた鍋料理で、早速乾杯。高度もないので寒くない夜をぐっすりと眠る。

4/29 (快晴) 少し寝すぎた 4:20 起床。6:15 出発。Iさん疲労が回復していないのか今日も足取りが重い。山伏峰 7:15、頂上は稜線から少し北にずれているので、左へ。7:30~8:10 蒜場山 (1263m)。やはり頂上は気持ちよい。ようやく大日岳までのルートが一望される。残雪に光る稜線・長大な尾根の競り上がり、これからのロングルートに気を引き締める。山伏峰へ戻らず、頂上から東へのびる尾根を下り稜線に乗り換えるのがショートルートということで、一気に鞍部へ向かって下る。Iさんすでに遅れ気味。早めに荷物を分け持とうということになり、Iさんの共同装備を皆で分ける。しかしピッチ上がらず、高立山 12:00~30 通過。稲葉の平 1:10~30 通過。丸子のカル 3:15 着。ここから稜線の一大ピーク烏帽子山がせり上がっている。登高意欲を無くしたパーティーは丸子のカルの手前で魅せられ、早々と幕営・宴会を決め込む。快晴好展望の中マットを敷き、雪原の上でつまみ作りにいそしむ。(計画の1日目幕営地に着いていない。はや予備日を使ってしまった。)明日は早立ちしよう！

4/30 (快晴・午後から風) 3:00 起床。春は夜明けが早い、すでに明るくなった中を出発 5:10。烏帽子山へ向かって、所々雪の切れ目を藪漕ぎして越える。7:30~40 烏帽子山北峰。いよいよ大日が大きくなってきた。でも、正面大きく立ちはだかるように見えているのは、西大日・薬師岳と地図から判明。稜線の概ね南についている残雪が崩れて通過できない所が断続的に現れ、そのつど藪漕ぎとなる。鳴原リーダーのルートファインディングで極力雪の上を歩き、消耗を避ける。マクソ穴峰 10:00~10 通過。しばらく岩峰地形で雪が無く、藪漕ぎを強いられる。地形がなだらかになり雪上歩行が出来るようになったにもかかわらず、午後から風が出だし強風のためふらつくこともありスピードアップできない。キンカ穴峰 3:00 通過。実川山を目前にして、風除けの利くテントサイトを見つけると幕営したくなる 3:30。計画を消化できないまま来ているので、焼峰や二王子に繋げるルートは止めて、飯豊稜線に出たあとは一般ルートを下山と決める。

5/1 (早朝晴れ・1800m あたりからガス・終日強風) 早立ちのつもりが皆で寝過ごしてしまう。4:30 起床、6:30 出発。下界に向けては見晴らしも利き晴れているのだが、相変わらずの強風で、主稜線から湧き出てくる雲が西大日の頂を隠しだす。リーダーも O 氏もしっかりした足取りで登高していかれるが、軽量の I 氏と私はしばし耐風姿勢をとらないとふらつくこともある。ガスの中ひたすら登る。8:00 薬師岳到着。8:20~40 西大日岳(2091m)。ルートが尾根の南側で、強烈な南風に常に晒され小柄な自分は右腕が寒さで固まってきそう…懐炉を貼って凌ぐ。9:30~50 大日岳(2128m)、ようやく飯豊山塊主稜線の一角にたどり着く。しかし一面ガスの中にて展望は何も得ることが出来ず残念至極である。それどころか視界の利かない中、飯豊主稜線のなだらかな地形にルートを見出せるか心配になる。地形図とコンパスをにらめっこ。頂上付近は雪が無く夏道が一部露出している。2・3 日前に登山者があったのか消えかかったトレースを見つける。先人の踏跡に助けられ、御西小屋へと着く 11:30。冬期入口から小屋の中へ入る。風の無い世界にホッとす。行動食をとりながら下山ルートの検討になる。昨夜の「計画の主稜縦走をして梅花皮小屋まで行き、石転び沢下降、飯豊山荘へ下山」に無理を感じ、「入山者の多い川入ルートで縦走・下山」の方がトレースも期待でき安全なのではということになる。(ここで携帯を取り出すもアンテナ立たず、エスケープルート変更の連絡ができない。) 12:30 小屋を後にする。小屋前には飯豊本山へ向かうトレースが残っていたのだが、20 分もすると不確かなものとなりトレースを見失ってしまう。現在地やや不明な状況となり迷走してしまう。リーダー偵察・残りは待機…「実は GPS 持って来たんや」と I 氏に取り出す。現在地が確定できる<御西岳の東・稜線やや北寄り>地図に記入。惜しいかなルートの読み込みをしてこられてなかったので GPS の力をフル発揮できない(ルート読み込みしてある GPS は道の無いルートの方向を指示してくれる)。1:40 ケルンを見つけたリーダーが戻ってきて前進。以後トレースも見つかり夏道露出部もあり、ほぼ迷わず飯豊本山(2105m)到着 2:50~3:00。南東方向へ注意深く下降、本山小屋を見つけると安心感が広がる。3:20 小屋泊、中でテントを張らせてもらう。

5/2 (ガス・1300m あたりから晴れ・稜線上は強風) 小屋中の撤収は早くて良い。5:10 出発。小屋を出ると相変わらずの強風である。ここから三国山まで概ね稜線は南下しているので向かい風になる。南面の登山道のためか結構夏道が出ている。御秘所 8:00 通過。7:20~40 切合小屋から種蒔山へは北面になるからか雪がべったり、大日杉口への下山道と間違わないよう種蒔山を通過。9:25~30 三国小屋。ここで道は南西の弥平四郎口と東北東の川入口の地蔵山方面に分岐。左折、すぐに岩稜の剣が峰になる。危なっかしく残った雪の上・岩の上と素早くコース判断するリーダーに続く。吹き上げてくる風にバランスを崩さぬよう気をつけて通過。地蔵山は南西面をトラバースして川入口の尾根にでる。アイゼンのかかりははっきりしたトレースがあったが、時折迷走。何度か GPS で現在地確認をしながら行く。地蔵山南尾根に出る頃、ようやくガスの下となる。向こうから登山者が登ってくる！3日ぶりの人との出会いである。情報交換をして別れる。11:40~12:00 上十五里。次々と登ってくるパーティーと出会う。12:50~1:10 御沢到着、登山口だ。20年前に訪れた時は、ここに釣り小屋があったのだが今は何も無い。林道・キャンプ場を通り川入村に着く。1:40 下山。

ここから、タクシーを呼ぼうと思うが携帯繋がらず。偶然出会った本山小屋管理人さんにお世話になりタクシーを呼んで頂く。会津タクシーに加治川ゲートまで30000円で交渉。このタクシーがなかなかやって来ず、待ちくたびれる。何とか車まで戻りつき、今宵は車の横で無事下山の乾杯となる。

5/3 (雨) のんびり朝食(素麺)後時間を潰し、山菜直売所・日帰り入浴(¥400)・昼食(豊山:新発田出身の大関)と寄り、西新発田駅まで送っていただき、解散となる。

長い日程の山行にお付き合いくださったメンバー・計画していただいたリーダーに感謝致します。